



いきいき元気なまちづくり 市町訪問

第35回

豊郷町



【写真:(公社)びわこビジターズビューローおよび豊郷町】

豊郷町は滋賀県東部、湖東平野に位置する面積7.80km²の県内でもっとも小さな町です。山林がほとんどない平坦な低地帯で、中山道と国道8号線、近江鉄道本線と東海道新幹線が通過しています。

人口は令和3年8月現在で7,290人。近年の宅地開発や高校生以下の医療費無料、給食費無料などが奏功し、移住者も増えました。0歳から39歳の割合は県平均より高く、国保加入者の平均年齢が若いことも当町の特徴です。

町域の半分が農地という特性から、かつては農業が中心で、食生活では労働に応じた濃い味付けが根づいています。就労状況が変わってきたいまもそのスタイルは受け継がれ、高血圧症の薬を飲んでいる人の増加に対する影響も懸念されています。年齢にかかわらず、まちぐるみで健康意識を高めていくことが大きな課題のひとつです。

【背景写真:豊郷小学校旧校舎群】



伊藤忠兵衛記念館



▲医療保険課長の西山さん

受診率は、年々上昇してきましたが、令和元年度は43.4%に低下しました。40～50歳代の受診率が低いことや新規受診者割合の横ばい傾向などが課題です。引き続き、新規受診者の開拓や受診しやすい体制づくりをはじめ、若い世代からの若年者健診（成人すこやか健診）受診勧奨を行いたいと考えています。一方、特定健診未受診者のうち、医療機関を受診されていない「健康状態未把握」の方は、滋賀県平均と比べ低くなっている状況です。

特定健診の 受診率向上に向けて

令和2年度よりAIを 活用した受診勧奨を実施

受診すると
いう選択を促すことを目的に「ナッジ理論」に基づいた受診勧奨はがきによる通知を行っています。



▲「面倒くさがり屋さん」向けの通知はがき

過去の受診結果やアンケートをもとにAIによって対象者の分析を行い、「頑張り屋さん」「心配性さん」「甘えん坊さん」「面倒くさがり屋さん」の4つの属性に分類。たとえば「面倒くさがり屋さん」なら、「健診は約1時間で終わる」ことや「無料」であることをアピールするなど、属性ごとに共感を得やすい表現を採用したはがきを送っています。さらに「健診なし」「受診歴なし」「国保新規加入者」を加え、対象者の特性に応じたアプローチを実施しました。昨年度から続くコロナ禍の影響もあり、成果についてそれ以前と比較するところは困難ですが、今後に期待したいところです。



▲ポロシャツとジャンパー、のぼり旗、1937(昭和12)年に建てられた豊郷小学校の講堂にて



職員全員でポロシャツを着用

日々の職務のなか、気負いなく実践できるPR方法として、医療保険課の職員全員で健診啓発ポロシャツやジャンパーを着用しています。また、オリジナルののぼり旗を作成し、庁舎やイベント会場で掲示することで啓発を行っています。

健康推進員との連携で地域の健康づくり

地域の健康づくりのリーダーとして活躍いただいているのが健康推進員の皆さんです。現在は31名の方が住民の健康保持増進を積極的に推進するボランティアとして活動しています。

3つの部会を中心に活動

健診のサポートをはじめとする共通の業務のほか、部会ごとに活動を進めています。県が行う子どもに向けた事業のサポートをはじめ、幼稚園で親子料理教室などを開催する「母子部会」、350gの野菜摂取をはじめ食生活の指導を中心に健康な毎日を支える「ヘルスサポーター部会」、そして働き盛り世代の健康づくりや骨粗しょう症の予防など生活習慣の改善を支援する「生活習慣病予防対策部会」の3つです。

オータムフェスティバルで

「健康づくりコーナー」を実施

オータムフェスティバルでは、減塩の取り組みの一環として、「生活習慣病

予防対策部会」において食品の塩分濃度に関する展示などを行っています。しかし新型コロナウイルス感染症の影響で、ほとんどの部会において例年通りの活動を行うことがむずかしく、調理実習や試飲を伴う事業の実施を控える事となりました。そこで、昨年は「母子部会」と「ヘルスサポーター部会」においても、オータムフェスティバルで啓発資料の展示・配布を行いました。

生活習慣病予防対策部会

「働き世代のための

生活習慣病予防スキルアップ」

みそ汁に野菜をたくさん入れることで汁の量が減り、減塩に繋がる「具たくさんみそ汁」を展示しています。また、試飲コーナーでは、



▲展示された「具たくさんみそ汁」

来場された方に塩分濃度0.8%のみそ汁の味をどう感じるか、シールを貼って判定していただきます。ここ数年は「丁度よい」という意見が多くなっています。

母子部会

伝統の郷土料理を親子でつくる教室

「子どもたちに伝えたい滋賀の味」



▲親子料理教室「食の知恵袋」で使った教材と、丁字麩を使ったピザのレシピ

ヘルスサポーター部会

「野菜食べ隊キャンペーン」



▲350gの野菜摂取をアピールする野菜食べ隊

当日は、ご家族連れでの来場が多く、それぞれの部会に足を止めていただくことができました。

いきいきウォーキングの開催

毎年、秋に行われる『豊郷町民健康フェスティバル』において、健康推進

員協議会主催の『いきいきウォーキング』を同時開催しています。

「正しい歩き方を学び、歩くことを通じて運動の大切さを体験していただくこと」を目的に、それぞれの体力に応じて3キロコース、4キロコースに分かれて参加いただきます。運動指導士によるウォーキングの説明や、クールダウンの体操指導も実施。地元

駐在所による交通整理の協力も得ながら、健康推進員さんがコース案内などを行いました。体を動かさすきっかけとして習慣化につなげることが目標です。



▲医療保険課の皆さん

まちぐるみの健康づくりを目指して

特定健診の質問票から把握した住民の生活習慣の状況によると、食生

活や喫煙等の生活習慣の改善が必要だと考えられるため、それが大きなテーマとなっています。

『みんなで育むいきいきすこやか豊郷』を合言葉に、住民と行政、団体、学校等が連携し、今後ともまちぐるみで健康づくりに取り組んでいきたいと考えています。

小中学校と連携し健康をサポート

小学校●フッ化物洗口事業、むし歯予防教室

小学校でフッ化物洗口事業やむし歯予防教室を展開しています。授業の一環と位置づけることで継続的な実施が可能。子どものころから健康意識を持つってもらうことも目的のひとつです。

中学校●喫煙防止教室、がん教育、生活習慣病予防教室

豊郷町では喫煙者の割合が県と比べても高くなっています。そこで中学生を対象に授業で喫煙防止教室を開催。たばこの害などの学習をはじめ「煙草を勧められた時の断り方」や「吸っている人への禁煙のすすめ方」などを学んでもらいます。

メタボ対策に

成人すこやか健診を実施

メタボ該当者の割合は、男女ともに国平均を上回っており、滋賀県でもつねに上位にいる状況です。とくにメタボ該当者で内服治療中の方のうち、3項目（血圧・脂質・血糖）該当者の割合が県と比べ高くなっています。

改善に向け、「成人すこやか健診」を実施。20～39歳の職場等で健診を受ける機会のない方をはじめ、メタボに着目した生活習慣病予防のための健康診査です。医療機関での健診も実施しています。

本年5月に

新庁舎がオープン

令和2年7月から建設を進めてきた役場新庁舎が5月6日にオープン。新しい空間で気持ちよく仕事を進めています。



▲新しい庁舎の医療保険課窓口

近江商人を輩出し、近江商人が育てたまち豊郷へ

豊郷は、伊藤忠商事・丸紅の創業者である初代伊藤忠兵衛をはじめ、近江商人を輩出したまちとして知られています。豊郷小学校旧校舍群は、昭和12年に丸紅の専務であった古川鉄治郎氏によって寄贈され、建築家ヴォーリス氏の設計で建てられました。「白亜の教育殿堂」「東洋一の小学校」といわれ、平成25年には国の登録有形文化財に登録されています。現在は、町立図書館や子育て支援センターなど町の複合施設として利用されており、自由にご見学いただけます。お気軽にお越しください。



旧豊郷小学校